

教育と文化



誰もがその個性と能力を發揮し活躍できる社会に

ダイバーシティとは

● 問合先 男女協働推進課

男女協働推進係 ☎ 2115

最近、『ダイバーシティ』という言葉が聞かれることがありますが、主に、企業における戦略や取り組みとして使われることが多いようです。ダイバーシティとは『多様性』のことで、性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会と呼んでいます。

2016年に、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律や、改正障害者雇用促進法が施行され、高齢者雇用制度も整備されました。経営にダイバーシティを取り入れることが政府主導で進められたことで、労働人口の減少や企業のグローバル化に対応できる人材の確保や、企業の活性化などにつながるものと期待されています。

しかし、総務省の『労働力調査』によると、平成29年における女性の非労働力人口2803万人のうち、

262万人が働くことを希望しているにも関わらず、求職をしていない女性の理由は、出産・育児のためが35・6%と最も多くなっています。また、介護・看護を理由に過去1年以内に離職した人は、平成29年には10万人と増加傾向にあり、その内訳は、女性7万人、男性3万人で、女性が7割を占めています。

働きたい人が、仕事と、出産・育児や介護などのどちらかを選択するのではなく、両方のバランスを良くすることが必要であり、企業においてもダイバーシティの推進や多様な働き方への対応が求められています。

このような中、私たちは互いの個性や能力を認め合い、尊重し合う気持ちを持つことが大切です。職場に限らず、家庭や地域での生活の中で、日頃から性別、国籍、年齢などに関わりなく、互いを認め合い、尊重しましょう。

郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ②

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

木場城跡

波多氏家臣 隈崎一族の居城

木場城跡は波多津町木場の『城ノ山』に立地する山城です。東西に延びる丘陵の尾根を段状に造成し、いくつもの区画(曲輪群)を作っています。ただし、造成が不完全で、曲輪の境の段がはつきりしていません。戦時の防衛遺構として、東の尾根からの進行を阻むために尾根を分断する溝状の掘り込み(堀切・写真)が設けられています。しかし、

木場城跡は、城としての機能ははつきりしませんが、波多氏の家臣の隈崎一族との関係が深かった城跡だと考えられます。

底面が掘り残され、十分に機能してはなかったと考えられます。このように全体的に城としての作りが不十分であるため、実際に戦で用いられたのか不明な城跡です。

木場城跡に関して、江戸時代の文化年間(1804〜1817)に作られたといわれる『松浦拾風土記』



↑木場城跡 堀切

平成 30 年度 4 月実施 全国学力・学習状況調査結果

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎☎3185)

市の概況について紹介します。なお、調査結果については、市内の各小・中学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対応策を考え、全職員の共通理解のもとで実践に移しています。

調査内容

■ 学年・教科など

- ▷ 小学校（第 6 学年）：国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科、質問紙（生活・意識）
- ▷ 中学校（第 3 学年）：国語 A、国語 B、数学 A、数学 B、理科、質問紙（生活・意識）

■ 設問内容（A と B の違い）

- ▷ A（知識）：身に付けておかなければ、あとの学年で影響を及ぼす内容、実生活において不可欠である知識・技能など
- ▷ B（活用）：知識・技能などを実生活で活用する力、課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力など

調査結果

1 学力調査（正答率）

【下表下段：市の記号説明】

- ▷ 全国平均との比較（左側：黄色 □） ◎：上回っている ー：同程度 △：下回っている
- ▷ 県平均との比較（右側：青色 □） ○：上回っている ー：同程度 ▲：下回っている ※同程度とは 0.4% 以内の開き

小学校（第 6 学年）

	国 語		算 数		理 科
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
全 国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%
県	71.0%	54.0%	63.0%	51.0%	61.0%
市	◎ ○	△ ▲	△ ▲	△ ▲	ー ▲

市は、国語 A は全国・県平均を上回りましたが、国語 B、算数 A は全国・県平均を下回りました。領域別では、国語は『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』、算数は『量と測定』で全国平均を上回りました。算数では『数量関係』に、理科では『地球』に課題が見られました。

中学校（第 3 学年）

	国 語		数 学		理 科
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)	
全 国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%
県	75.0%	59.0%	64.0%	44.0%	64.0%
市	△ ▲	△ ▲	△ ▲	△ ▲	△ ▲

市は、すべての教科区分で、全国・県平均を下回りましたが、年々全国・県平均に近づいてきています。領域別では、国語は『書くこと』と『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』に、数学は『関数』『図形』『資料の活用』に大きな課題が見られました。理科では『地学的領域』で課題が見られました。

2 質問紙（生活・意識）調査

小学校（第 6 学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 自分にはよいところがあると思っている
- ▷ 毎日の就寝、起床時間が決まっている
- ▷ 今住んでいる地域の行事に参加している

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 将来の夢や目標について考えていない
- ▷ 朝食を毎日食べていない
- ▷ 地域や社会のために何をすべきか考えていない
- ▷ 平日の勉強時間（塾を含む）が少ない

【児童の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		土・日曜日
	2 時間以上	1 時間未満	勉強や読書が多い
全 国	29.3%	33.7%	74.2%
県	24.9%	35.3%	68.5%
市	19.7%	39.2%	70.7%

中学校（第 3 学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 人の役に立つ人間になりたいと思っている
- ▷ 家で学校の宿題をしたり読書をしたりする時間が多い
- ▷ 今住んでいる地域の行事に参加している

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 地域のボランティア活動への参加が少ない
- ▷ 家で学校の授業の予習・復習をしない
- ▷ 自分にはよいところがあると思っていない
- ▷ 平日や週末の勉強時間（塾を含む）が少ない

【生徒の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		土・日曜日
	2 時間以上	1 時間未満	勉強や読書が多い
全 国	36.4%	29.4%	64.4%
県	27.2%	35.6%	44.9%
市	16.0%	49.0%	35.1%

3 今後、市として力を入れていくこと

■ わかる授業の展開（学校）

学習内容を分かりやすくするための方法を探り、基礎・基本の徹底とそれらを活用できる力を高める授業を実践する。

■ 家庭学習の習慣化（家庭・学校）

家庭と学校が同じ方向を向いて、授業と結びつけた効果的な家庭学習を推進する。

■ 自己有用感を高める取り組みの推進（家庭・学校・地域）

成功体験を多く経験させることで自信を持たせ、安心して学校生活を送ることができる環境づくりを目指す。

※本調査は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。